



社会貢献大賞

千葉県遊技業協同組合
『夢まるふぁんど』を中心とした
総合的社会貢献」事業



千葉県遊技業協同組合 理事長
大城正準さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会 委員長代行
脇田直枝氏

マスコミと二人三脚で貢献喚起原資はこぼれ玉。県内メディア三社を身内にして『夢まるふぁんど委員会』を設立、という地域一体となった機動的アイデアに感服しました。福祉、文化支援と毎月に行われる活動は、そのつどマスコミを通じて報道されることにより、業界のモラルアップはもちろんのこと、広く一般に社会貢献の意義を喚起させ、啓蒙することになった功績は大きい。



地元メディアと協働し、ホールのこぼれ玉や余り玉を善意にあふれた“夢玉”へ

社会貢献活動の新しい仕組みを求めて

文化の振興、コミュニティーの形成、安全・安心の確保、福祉への寄与などを通じて地域社会に積極的に参画し、地域の人々との協働や共生へ向けた努力を積み重ねることは、CSR（企業の社会的貢献）に象徴される企業の責任の一端である。

とりわけ、地域社会との密接なつながりがなければ事業を展開し難いのが、パチンコ業界といえるのかもしれない。ホールに来てくださるお客様の大部分は、そのホールの近隣に住む地域住民の方々である。その意味で、パチンコ業界は地域社会との共生なくしては存在し得ない業態・業種といってもよい。そのことを認識している多くの業界人が、日本中のいろいろな地域で、それぞれの実状に応じた社会貢献を実践しているが、設立から40年以上となる千葉県遊技業協同組合は、傘下の地区組合や組合加盟店と一体となり、県内の福祉施設への福祉車両の寄贈や少年野球教室の開催など、地域との共生・協働によるさまざまな社会貢献活動に早くから熱心に取り組んできた都府県組合の一つである。

「当組合では、かなり以前から地域貢献、社会貢献活動に熱心に取り組んできましたが、組合員が一致団結して取り組めるような社会貢献活動の新しい仕組みはないものかと考えていました。それによって組合の一部にある、やりたいところはやれればいいというような空気を払拭したかったし、また私どもが取り組んでいる社会貢献活動に対して、地域の方々にも少しでも興味や関心を持っていただければと思いました。この分野の先進地域ともいえる兵庫県の仲間の取り組みなども視察させていただき、しっかりとした組織的、体系的、総合的なものを立ち上げたいという思いで平成17年に設立したのが、夢まるふぁんど委員会でした」と、千遊協の大城正準理事長は『夢まるふぁんど』発足の背景について語る。

ちば・夢まるふぁんど事業全体概要図



お客様の真心と広報のプロの知恵を借りる

『夢まるふぁんど』とは、千遊協加盟ホールに来店されるお客様の協力を得て、遊技中の「こぼれ玉」や景品交換時の「余り玉」を「基金」として提供していただき、それを原資として積み立てたものを、千葉県内の福祉施設やボランティア団体、地域づくりや地域おこしに取り組む自治体や関係団体、さらにはユネスコなどの文化機関へ毎年、活動補助金や支援金として拠出していこうというものである。いわば、こぼれ玉、余り玉を善意が込められた“夢玉”に換える社会貢献事業といえる。また、基金の原資が常連やファンが善意で供出してくれるこぼれ玉や余り玉のため、その際のやりとりが、ホールとお客様の良好なコミュニケーションにも役立つ。

事業の対象となるのは次の3分野で、それぞれの内容は概ね以下の通りである。

(1) 福祉事業(ちばボランティアアシスト)

福祉ボランティア、福祉施設など、社会福祉活動を行っている団体・組織などに対して支援金を寄贈。

(2) 地域振興事業(ちばふるさと振興サポート)

自治体、第三セクター、民間団体の地域おこし事業やプロジェクト活動に対して支援金を寄贈。

(3) 文化(国際)事業(ユネスコ等活動支援事業)

ユネスコや、世界的な文化遺産の保存修復にあたる文化財保護・芸術研究助成財団などへ支援金を寄贈。

このうち福祉事業と地域振興事業に関しては公募としており、支援金を希望する団体・施設・自治体などから活動内容を記載した応募用紙を夢まるふぁんど委員会に提出してもらい、審査委員会が公正、厳密な審査をしたうえで寄贈先を決定する。支援金額は原則、一事業

分野につき約500万円としている。昨年度は、福祉事業として児童養護施設・母子生活支援施設など14の施設・団体や千葉県こども病院への支援を、地域振興事業として5市町村に防犯パトロールカーの寄贈を、文化事業として文化財保護・芸術研究助成財団への事業資金贈呈など、約1,500万円(平成21年中の『夢まるふぁんど』事業を含む千遊協の社会貢献等支援金総額は、2,446万9,000円)を拠出している。なお、これまでの『夢まるふぁんど』による支援総額は約6,700万円にのぼる。

『夢まるふぁんど』の、もうひとつの大きな特徴は、その組織形態にある。実施主体となる夢まるふぁんど委員会は、千葉県を代表する地元メディアの千葉日報社、千



千葉県内の各市町村に防犯パトカーを贈るのが当面の目標

葉テレビ放送、ベイエフエムと千遊協の4者によって構成され、実行委員長は千葉日報社社長が務めている。「このメディア3社は、マスコミの特徴を生かし、これまでそれぞれが独自に社会貢献活動を行っていました。それらと協働することができれば、千葉県独自の社会貢献活動を大きなうねりとして展開できるのではないかと考えました」と、大城理事長。このメディアとの協働という発想は、業界の社会貢献活動が抱えている一つのジレンマを解消する方策でもあった。

それは社会貢献活動の広報、認知度という問題である。業界では都府県方面、支部、ホールと、それぞれの単位でさまざまな社会貢献活動を実践しているが、その事実が一般の方々にはなかなか伝わらないという声をよく聞く。その課題をクリアできれば、社会貢献活動へ取り組む際の一層のモチベーションアップにつながり、さらに地域住民と一体となった社会貢献活動の輪を広げていくこともできる。そこで千遊協では広報・啓蒙のプロフェッショナルであり、地域住民や行政などとも太いパイプを持ち、影響力もある地元のマスメディアとの協働



地域振興事業の一環として行われている防犯パトカーの寄贈式。森田県知事も出席

を考えた。そうすることにより社会貢献活動の事業内容を知らしめ、また、公益性や信頼性という事業の社会的意義を広めることが可能になった。つまり、『夢まるふぁんど』は社会貢献事業であるとともに、業界のイメージアップや社会的地位向上のための広報活動という側面も担っている。

情報開示や公平性を徹底させて事業継続を

千遊協の『夢まるふぁんど』は、目的、システム、組織のどれをとっても、実によく考えられた社会貢献事業の仕組みであることは間違いない。それは、これまで地道に積み重ねてきた社会貢献活動の一つの集大成であるとともに、今後の社会貢献活動のさらなる展開・深化に向けて、各地区やホールがその下に集うための鮮明な旗印でもある。幸いにして福祉事業の応募数が2倍になったり、防犯パトロールカーの2台目の申請が来るなど、その活動は地域に徐々に認知され、浸透しつつある。今回の社会貢献大賞受賞の意義、今後の展開について、大城理事長は以下のように語る。

「今回の受賞は素直にうれしいし、地区組合やホールが今後ますます熱心に社会貢献活動に取り組んでくれるものと期待しています。しかし、これで満足というわけではありません。情報開示や公平性を徹底させながら、いかにこの事業を維持、継続していくかが今後の課題です。福祉の現場などを訪問し、自分たちが期待されている、自分たちの活動を待っている人たちがいるということを知ることは大きな喜びです。それが仕事の上での励みやモチベーションにもつながる。そのために、千遊協の社会貢献委員会が中心となって行っている『夢まるふぁんど』以外の社会貢献活動、さらに各地区、各ホール独自の活動も含め、活動や事業の継続を通じて地域社会に貢献するというボランティア精神を組織の文化として根づかせていきたい」。

もうここまででいいという限界がないものが、この社会にはさまざまあるが、社会貢献活動もその一つだろう。地域と共生していくために、社会貢献活動を通じて不断に社会還元、地域還元を果たしていくことが期待されている。



夢まるふぁんど設立時の新聞報道



福祉事業への支援金贈呈式。応募数も年々増えている



地元紙の「千葉日報」に掲載された夢まるふぁんどの活動

赤田委員長(右)から寄贈品の目録を手渡される福祉施設代表者ら=2日午後、千葉市中央区